

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400454		
法人名	社会福祉法人 みのり福祉会		
事業所名	グループホームみのりかじか(1階 三徳) まとめ		
所在地	鳥取県東伯郡三朝町山田653-1		
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和5年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の思いを大切に、安心安全な生活が送れるよう支援している。また、ご家族様へご利用者様の状況を細目に報告・相談し、情報共有に努めている。コロナ禍の為、ご家族様の面会には制限がされているが、ご利用者様及びご家族様の繋がりを大切にするため、玄関のドア越しでの面会やオンライン面会を実施している。

ご利用者様の生活の質を保つためにも、3室に配慮しつつ行事やレクリエーション活動を提供している。お風呂はラジウム温泉を源泉からひいており、心身ともに寛いでいただいている。脱水予防に努め、冬期にはインフルエンザ予防のため、紅茶を提供している。

年間を通して温度、湿度の管理に努めている。近年はコロナ禍にあり、感染予防のため一ケア一手指洗い及び手指消毒を徹底し、手が触れるところの消毒を適宜行っている。また、1時間に5分程度換気を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は三朝温泉街の入り口にあり、源泉からのラジウム温泉が引かれ、入浴は軽介助の利用者であれば毎日でも入ることができる。

コロナ禍ではあるが、法人本部から地域の感染状況や感染対策の情報提供が随時ある。指示に添い、弁当持参の花見、ドライブ外出、自宅訪問・外泊など、できる限りの外出支援を行っている。

施設内では、季節に合わせた行事を企画し、生活を楽しめるよう工夫している。

玄関でのガラス越しの面会に加え、、オンライン面会もできるよう整備した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成29年度より新たに理念を作成し、朝礼時唱和し、意識づけをしている。職員会議、ユニット会議で振り返りを行い日々の支援に繋げている。	法人全体の理念をふまえた事業所の理念を玄関と事務所、リビングに掲げ、毎朝の申し送り時に唱和している。月目標をたてて意識づけ、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域での行事へご利用者様が参加することはできていない。また、地域の方をグループホームでの行事へ招待することもできない。町内の一斉清掃へ職員が参加している。	例年であれば、地域とのつながりを大切にしながら行事を行っているが、コロナ禍のため自粛して行っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、音読教室での認知症予防支援や認知症カフェの開催ができていないため、認知症に関する情報提供ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面にて活動報告や事故報告等を行い、同封の書面にて助言や意見をいただいている。返信していただいた意見や質問への返答や助言への対応を会議録にまとめて、再送している。	今はコロナ禍のため書面を郵送し、確認と意見を返信してもらう方法をとっている。意見や要望はなかった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	様々な形で情報提供やアドバイスをいただいている。ご家族様やご利用者様からの質問等や困りごとがある場合、役場に相談している。	役場とは、日頃から相談や協力ができる関係にある。直接、利用者や家族の相談をしたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会及び施設内勉強会それぞれ年4回実施し、身体拘束が行われていないか検討会を行っている。居室等に人感センサーを設置する場合、ご利用者様やご家族様に了承を得ている。	身体拘束虐待防止委員会を設置し、年4回開催している。内部勉強会で、不適切ケアの事例検討をし、サービスの向上に取り組んでいる。	身体拘束は重要なテーマなので更なる学びを深めてほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会及び施設内勉強会それぞれ年5回実施し、虐待が行われていないか職員それぞれが内省する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修があれば参加している。現在2名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍のため入所前の面談や施設内見学はできないが、電話にて聞き取りや質問等を受け付けている。契約時に重要事項やリスク等説明を行い、納得いただいてから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年満足度調査を実施し、ご意見やご要望を聴取している。頂いたご意見等は職員会で周知し、改善点を話し合っている。話し合った内容を含む結果等をご家族様へ送付し、施設内にも掲示している。	職員は、日頃から家族との信頼関係を築き上げられるよう努めている。法人共通の家族アンケートで意見や要望を聞き取り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会で意見、要望を聴取している。必要があれば管理者若しくは施設長が本法人本部へ挙げている。	管理者は日頃から職員の意見を聞くよう心がけている。毎月の職員会議で意見や要望等を話し合い、サービスの向上に努めている。年1回は施設長と個人面談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は資格取得に向けた支援を行い、職員が望む研修に参加できるようにしている。取得した資格に応じて手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設を訪問して職員の勤務状態を把握に努めている。法人は資格取得に向けた支援を行い、職員が望む研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人で高齢者福祉部会などにおいて他事業所職員との意見交換会を行っている。他法人との相互研修はコロナ禍のため未実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談はコロナ禍のため難しい面もあるが、出来るだけ直接面談を行っている。面談が出来ない場合は、担当職員等から本人様の生活歴や希望等を聞き取りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時にご家族様からご利用者様への思いをお聞きし、ご要望など伺っている。また、入所後も遠慮されることなく、ご意見等いただきたい事をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聞き取りをご利用者様やご家族様、難しい場合は担当職員等から行い、希望される生活がグループホームに入られてからも送っていただけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が所有している力を発揮するために必要な支援を提供し、自立支援及び重度化防止に努めている。 ご本人様と職員がともに家事などに取り組み、家庭的な雰囲気づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会できなくても、ご利用者様の思いをご家族様へ電話などで伝えたり、難聴で会話ができない方へも筆談等で伝えるなど、家族間の絆が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のためできていない。	コロナ禍のため、行事の開催や参加については自粛しており、買い物なども出かけていない。近所への散歩には可能な限り寄り添い出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の良好な関係を築くため、職員が間を取り持ったり、得意不得意に合わせて夫々が主となって活動できるレクリエーションを各種提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った事や、何かあれば相談に来ていただくようお願いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で表情や仕草などから汲み取り、ユニット会議などで本人様の希望にそったケア内容を検討し、提供している。	利用者本人がその人らしく暮らし続けるにはどうしたらよいか等、一人ひとりの興味あること、できそうなことを把握し、検討・実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談はコロナ禍のため難しい面もあるが、出来るだけ直接面談を行っている。面談が出来ない場合は、担当職員等から本人様の生活歴や希望等を聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で職員が気付いたことをユニット会議などで話し合い、ご利用者様の心身状況や認知症の進行具合について情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気付いたことをユニット会議などで話し合い、ご利用者様の心身状況や認知症の進行具合について情報を共有している。また、ご家族様とも情報を共有し、現状を基希望を伺って計画作成している。	担当者を中心にモニタリングを行っている。家族の意向を確認して同意を得た上で、主治医の意見を含めたカンファレンスをし、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気付いたことをユニット会議などで話し合い、ご利用者様の心身状況や認知症の進行具合について情報を共有している。また、ご家族様とも情報を共有し、現状を基希望を伺って計画作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の希望に応じ、必要な支援ができるよう体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のためできていない。コロナの為出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化があった場合はご家族様へ報告、相談し、必要及び希望に応じて受診している。	定期的に主治医の診療を受けている。必要な時には往診を依頼している。緊急時も安心して相談できる関係にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医及び主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活状況を書面で情報提供している。医療機関と連携してご利用者様やご家族様の希望に沿った退院先の検討を行っているし、更に入院中の洗濯等について、ご家族様が対応できない場合は職員が対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近いと職員が判断した場合、主治医からご家族様へ状況報告を説明していただき、ご家族様から本人様及びご家族様の意向を伺っている。希望された場合は施設で看取りをさせていただいている。	利用者一人ひとりの重度化や体調の変化に応じた終末期の方針や対応策を話し合い、家族の意向に沿うよう支援をしている。	現在のマニュアルを見直し、終末期や看取りの方針等を盛り込んだものに整備してほしい。また、家族の意向を書面で確認できるようにしてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍のため救命救急講習はできていないが、緊急時の対応方法を施設内勉強会で講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで避難訓練を年2回実施、施設内勉強会を定期的実施している。地区での防災訓練はコロナ禍のため未実施。	定期的に消火訓練、避難訓練を行っている。水害に備えて、二階に避難する訓練をした。部屋の表札の裏面で避難済みの確認ができるようにしてあるが、表札自体がない部屋がある。	地域との協力体制を整備してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会及び身体拘束廃止・虐待防止委員会が先頭に立って職員の意識向上を図っている。	法人の接遇委員会で2か月ごとに接遇目標を定めている。定期的に接遇チェック表を用いて、自身の対応を見直す機会としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が自分の思いを話しやすいように、又自分で決められるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望に沿って日々の活動を提供し、できる限り一日の流れも本人様の希望に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り本人様に衣類の選択をしていただきしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関りの中で聞き取った嗜好品を提供するようにしている。	栄養アセスメント担当者が利用者や職員の意見を取りまとめて、日々のメニューに反映するよう努めている。季節の行事に合ったメニューをたて、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養アセスメント担当者が中心になって、メニューを作成し、実際の食事量や食事の様子をユニット会議等で話し合い、メニューの作成の参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる限りまでご利用者様自身にいただき、できないところを介助している。口腔内の状況把握に努め、必要に応じて受診を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレにて排泄できるよう取り組んでいる。また、オムツ対応の方であってもタイミングをみてトイレ案内を試みている。	普段はおむつ対応の利用者でも様子を見て、2人介助でトイレでの排泄を支援している。介護リフトを準備しているが、使用していない。	より職員の負担軽減につながるように、法人の専門職に介護全般についてのアドバイスを受けることができる仕組みを作ってはどうか。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や食事形態、運動の様子を確認し、主治医と相談しながら排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそっていつでも入浴が出来るように支援している。ゆず湯など季節感も味わってもらっている。	温泉の源泉があり、週2回の入浴を支援している。毎日入浴する利用者もある。湯船に入れない利用者には、しっかり温まるよう温泉によるかけ湯をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活パターン合わせ、就寝や起床時間に無理のないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報書をケース記録にとじ、いつでも確認できるようにしている。新しく処方されたら記録し、内容を申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割や生活に張り合いが持てるように得意なことや好きな活動を中心に提出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため買い物外出等は未実施。 自宅外出及び外泊のみ、抗原検査実施することを前提にいただいている。	買い物外出などは自粛しているが、計画をたて感染対策をしながら、弁当を持っての花見ドライブなどは行っている。法人の指導にそって、自宅への外出、外泊を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方はお金を所持されている。管理出来ない方は職員が預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでも自由に電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やテレビの音量等気をつけている。ソファ、テーブルの配置などに気を配っている。テーブルに季節の花など飾り、季節を感じられるように展示物もしている。	明るく、ゆったりとした広さのある共有空間で、定期的な消毒や換気が行われている。廊下には、思い出の行事写真や季節の展示物を掲示している。	浴室のより一層の清掃と、古くなった備品の取り換えを検討してほしい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子、ソファ等それぞれ自分の落ち着く所が見つけられるようにしている。季節によっては陽あたりのいい椅子に移動し、日向ぼっこができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持参していただき、自分の家のように感じてもらえるよう工夫している。	各居室に温度・湿度計があり、不在時に換気するなど気を配っている。家族の写真や馴染みの家具を置き、不安感がなく居心地よい場所となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、手すりが設置されている。トイレなど1人で行きたい場合に、お一人でも行けるよう掲示をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171400454		
法人名	社会福祉法人 みのり福祉会		
事業所名	グループホームみのりかじか(2階 かじか)		
所在地	鳥取県東伯郡三朝町山田653-1		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 15 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571番地		
訪問調査日	令和5年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の思いを大切に、安心安全な生活が送れるよう支援している。また、ご家族様へご利用者様の状況を細目に報告・相談し、情報共有に努めている。コロナ禍の為、ご家族様の面会には制限がされているが、ご利用者様及びご家族様の繋がりを大切にするため、玄関のドア越しでの面会やオンライン面会を実施している。

ご利用者様の生活の質を保つためにも、3蜜に配慮しつつ行事やレクリエーション活動を提供している。

お風呂はラジウム温泉を源泉からひいており、心身ともに寛いでいただいている。脱水予防に努め、冬期にはインフルエンザ予防のため、紅茶を提供している。

年間を通して温度、湿度の管理に努めている。近年はコロナ禍にあり、感染予防のためケア一手洗い及び手指消毒を徹底し、手が触れるところの消毒を適宜行っている。また、1時間に5分程度換気を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照	
------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	平成29年度より理念を作成し、朝礼時唱和し、意識づけをしている。職員会議、ユニット会議で振り返りを行い日々の支援に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域での行事へご利用者様が参加することはできていない。また、地域の方をグループホームでの行事へ招待することもできない。 町内の一斉清掃へ職員が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、音読教室での認知症予防支援や認知症カフェの開催ができていないため、認知症に関する情報提供ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面にて活動報告や事故報告等を行い、同封の書面にて助言や意見をいただいている。返信していただいた意見や質問への返答や助言への対応を会議録にまとめて、再送している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	様々な形で情報提供やアドバイスをいただいている。ご家族様やご利用者様からの質問等や困りごとがある場合、役場に相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定期準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会及び施設内勉強会それぞれ年4回実施し、身体拘束が行われていないか検討会を行っている。 居室等に人感センサーを設置する場合、ご利用者様やご家族様に了承を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会及び施設内勉強会それぞれ年5回実施し、虐待が行われていないか職員それぞれが内省する機会を設け、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修があれば参加している。現在2名の方が利用されている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	コロナ禍のため入所前の面談や施設内見学はできないが、電話にて聞き取りや質問等を受け付けている。契約時に重要事項やリスク等説明を行い、納得いただいてから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年満足度調査を実施し、ご意見やご要望を聴取している。頂いたご意見等は職員会で周知し、改善点を話し合っている。話し合った内容を含む結果等をご家族様へ送付し、施設内にも掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や職員会で意見、要望を聴取している。必要があれば管理者若しくは施設長が本法人本部へ挙げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は資格取得に向けた支援を行い、職員が望む研修に参加できるようにしている。 取得した資格に応じて手当が支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設を訪問して職員の勤務状態を把握に努めている。 法人は資格取得に向けた支援を行い、職員が望む研修に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人で高齢者福祉部会などにおいて他事業所職員との意見交換会を行っている。 他法人との相互研修はコロナ禍のため未実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談はコロナ禍のため難しい面もあるが、出来るだけ直接面談を行っている。面談が出来ない場合は、担当職員等から本人様の生活歴や希望等を聞き取りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所時にご家族様からご利用者様への思いをお聞きし、ご要望など伺っている。また、入所後も遠慮されることなく、ご意見等いただきたい事をお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の聞き取りをご利用者様やご家族様、難しい場合は担当職員等から行い、希望される生活がグループホームに入られてからも送っていただけるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が所有している力を発揮するために必要な支援を提供し、自立支援及び重度化防止に努めている。 ご本人様と職員がともに家事などに取り組み、家庭的な雰囲気づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため面会できなくても、ご利用者様の思いをご家族様へ電話などで伝えたり、難聴で会話ができない方へも筆談等で伝えるなど、家族間の絆が途切れないように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のためできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の良好な関係を築くため、職員が間を取り持ったり、得意不得意に合わせて夫々が主となって活動できるレクリエーションを各種提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	困った事や、何かあれば相談に来ていただくようお願いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で表情や仕草などから汲み取り、ユニット会議などで本人様の希望にそったケア内容を検討し、提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談はコロナ禍のため難しい面もあるが、出来るだけ直接面談を行っている。面談が出来ない場合は、担当職員等から本人様の生活歴や希望等を聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で職員が気付いたことをユニット会議などで話し合い、ご利用者様の心身状況や認知症の進行具合について情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が気付いたことをユニット会議などで話し合い、ご利用者様の心身状況や認知症の進行具合について情報を共有している。また、ご家族様とも情報を共有し、現状を基希望を伺って計画作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が気付いたことをユニット会議などで話し合い、ご利用者様の心身状況や認知症の進行具合について情報を共有している。また、ご家族様とも情報を共有し、現状を基希望を伺って計画作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の希望に応じ、必要な支援ができるよう体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のためできていない。コロナに為出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調に変化があった場合はご家族様へ報告、相談し、必要及び希望に応じて受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医及び主治医に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には施設での生活状況を書面で情報提供している。医療機関と連携してご利用者様やご家族様の希望に沿った退院先の検討を行っているし、更に入院中の洗濯等について、ご家族様が対応できない場合は職員が対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期が近いと職員が判断した場合、主治医からご家族様へ状況報告を説明していただき、ご家族様から本人様及びご家族様の意向を伺っている。希望された場合は施設で看取りをさせていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍のため救命救急講習はできていないが、緊急時の対応方法を施設内勉強会で講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いで避難訓練を年2回実施、施設内勉強会を定期的実施している。 地区での防災訓練はコロナ禍のため未実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会及び身体拘束廃止・虐待防止委員会が先頭に立って職員の意識向上を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が自分の思いを話しやすいように、又自分で決められるような声掛けを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の希望に沿って日々の活動を提供し、できる限り一日の流れも本人様の希望に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り本人様に衣類の選択をしていただきしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の関りの中で聞き取った嗜好品を提供するようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養アセスメント担当者が中心になって、メニューを作成し、実際の食事量や食事の様子をユニット会議等で話し合い、メニューの作成の参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる限りまでご利用者様自身にしていいただき、できないところを介助している。 口腔内の状況把握に努め、必要に応じて受診を促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレにて排泄できるよう取り組んでいる。また、オムツ対応の方であってもタイミングをみてトイレ案内を試みている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や食事形態、運動の様子を確認し、主治医と相談しながら排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にそっていつでも入浴が出来るように支援している。ゆず湯など季節感も味わってもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活パターン合わせ、就寝や起床時間に無理のないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報書をケース記録にとじ、いつでも確認できるようにしている。新しく処方されたら記録し、内容を申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の役割や生活に張り合いが持てるように得意なことや好きな活動を中心に提出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため買い物外出等は未実施。 自宅外出及び外泊のみ、抗原検査実施することを前提にいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方はお金を所持されている。管理出来ない方は職員が預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望がある時はいつでも自由に電話をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明やテレビの音量等気をつけている。ソファ、テーブルの配置などに気を配っている。テーブルに季節の花など飾り、季節を感じられるように展示物もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の椅子、ソファ等それぞれ自分の落ち着く所が見つけられるようにしている。季節によっては陽あたりのいい椅子に移動し、日向ぼっこができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの物を持参していただき、自分の家のように感じてもらえるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、手すりが設置されている。トイレなど1人で歩きたい場合に、お一人でも行けるよう掲示をしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	看取りマニュアルの不備	終末期・看取りの方針をふまえたマニュアルに整備する。 家族の意向を確認する書面を作る。	終末期・看取りの方針を盛り込んだマニュアルを作る。 看取りについての書面を作る。(看取りについてのパンフレット・説明書・依頼書等作り家族の意向を確認していく)	3年ヶ月
2	5	離設防止のため玄関にセンサーを付けていた。	身体拘束について毎月勉強をしていく。	身体拘束廃止・虐待防止委員会実施する。(年4回) 毎月の職員会で身体拘束について勉強をしていく。 毎月のユニット会議等ご利用者様の動きを話し合うと共に動きをしっかりと把握していく。 身体拘束・虐待等研修に参加する。	12ヶ月
3	13	コロナ禍のため地域との協力体制ができていない。	地域との協力体制をはかり訓練をしていく。	地域に協力体制をお願いしていく。 施設内の構造を理解してもらう。	6ヶ月
4	16	排泄(排便)に職員が2名取られてしまい負担がある。	職員の介護負担の軽減。	職員の介護負担の軽減を図っていく為 法人内の専門職に相談していき 指導を受けていく。	12ヶ月
5	19	浴室が古くなってきている。	浴室の使い勝手を良くする。	浴室のドアの取り換えをする。 開設20年近くなりかなり古くなってきていることもあり浴室の取り換えを検討していく。 浴室の清掃をしっかりとしていく。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。